降誕祭聖体礼儀代式
単音聖歌譜

釧路ハリストス正教会

注意　譜面中、五線譜上に ||O|| とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈祷文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、氣をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2021年　1月　7日

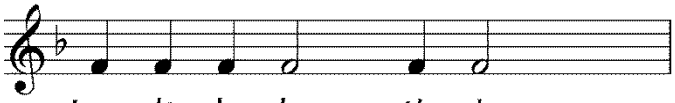
釧路ハリストス正教会

管轄司祭ステファン内田圭一

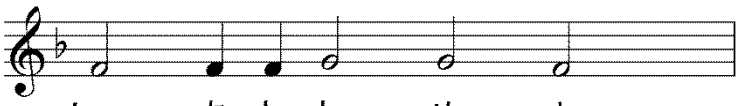
代禱）主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我等を憐み給え、

【　大聯禱　】

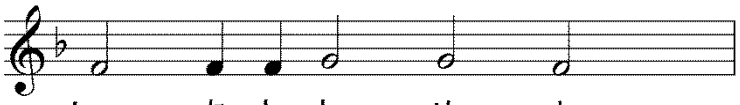
代禱）我等安和にして主に禱らん、



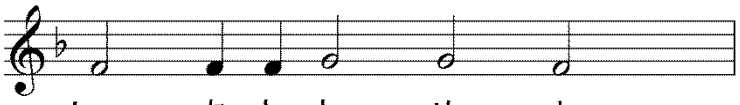
代禱）上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



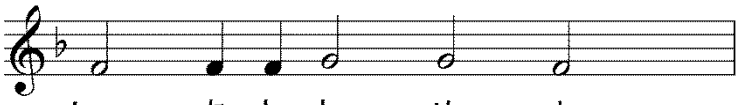
代禱）全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



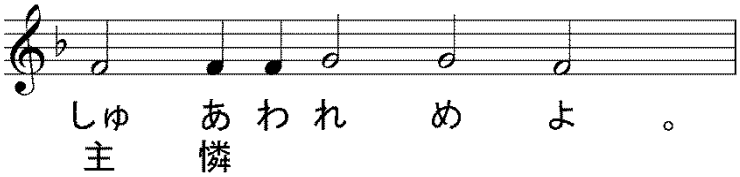
代禱）此の聖堂、及び信と愼と神を畏るる心とを以て此に來る者の爲に主に禱らん、



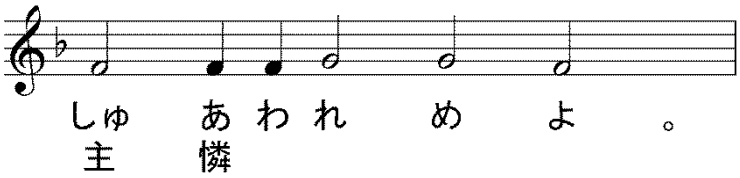
代禱）教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教ダニイル、尊貴なる我等の仙台の大主教セラフィム、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、



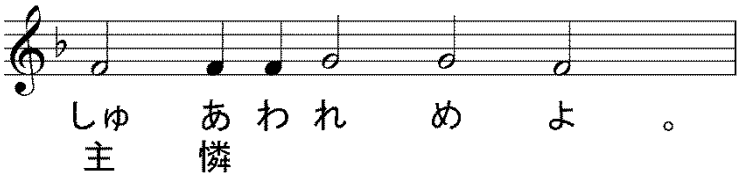
代禱）我國の天皇、及び國を司る者の爲に主に禱らん、



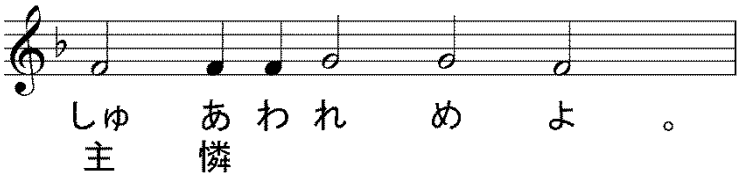
代禱）此の都邑と凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



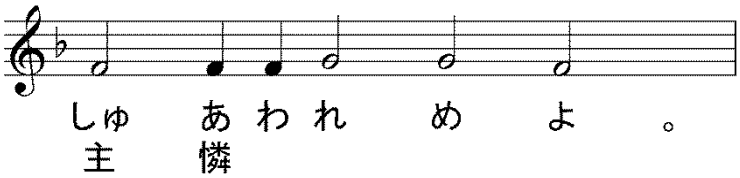
代禱）氣候順和、五穀豐穣、天下泰平の爲に主に禱らん、



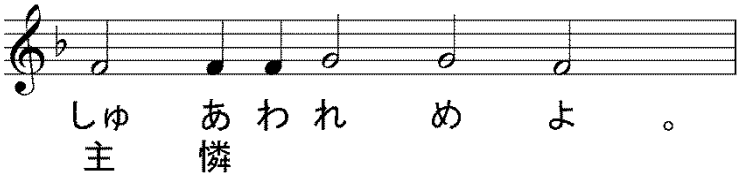
代禱）航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び彼等の救の爲に主に禱らん、



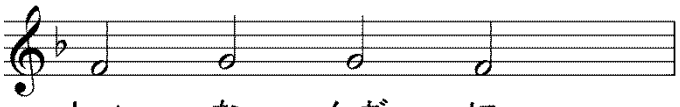
代禱）我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



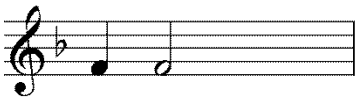
代禱）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



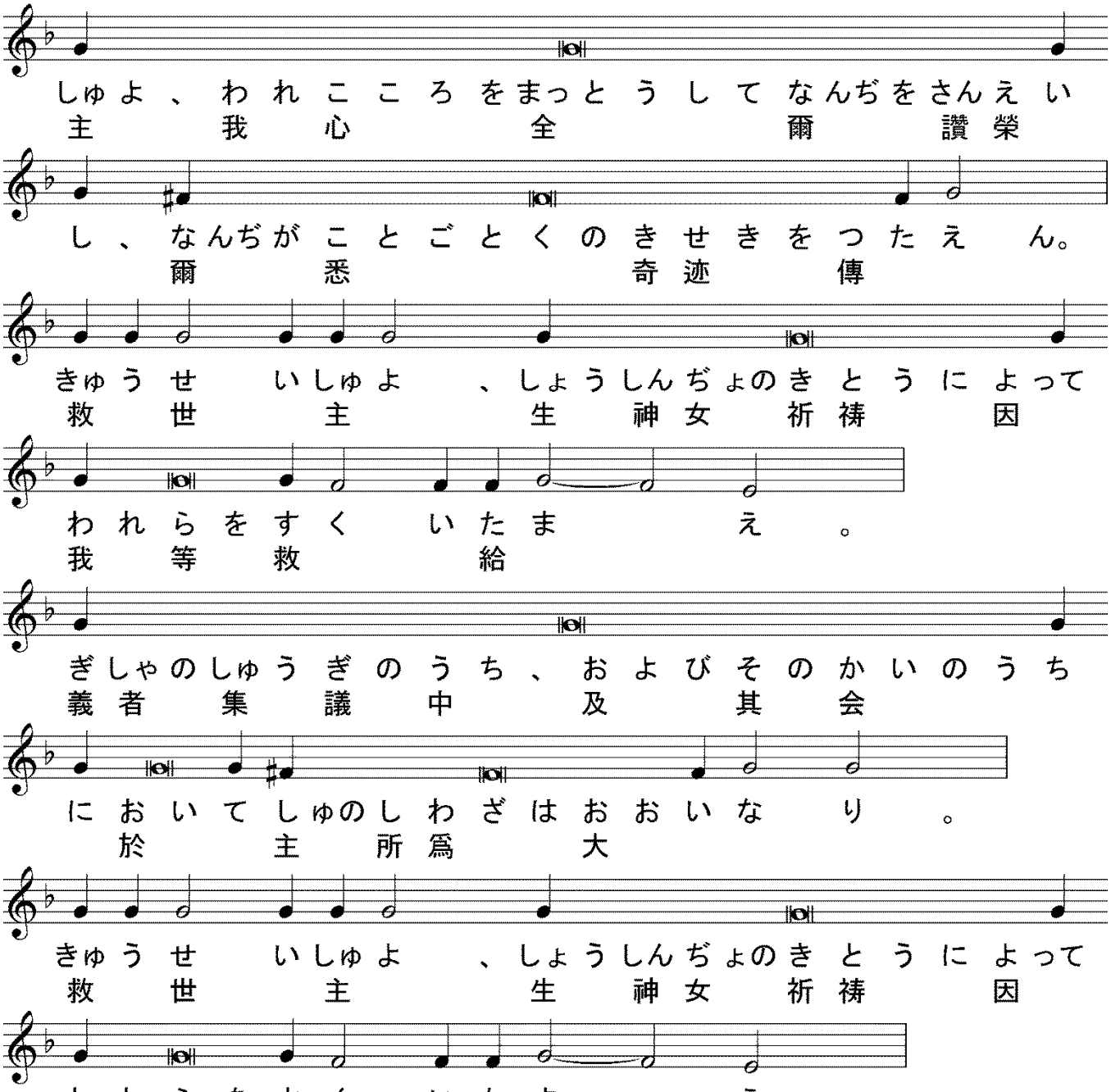
代禱）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

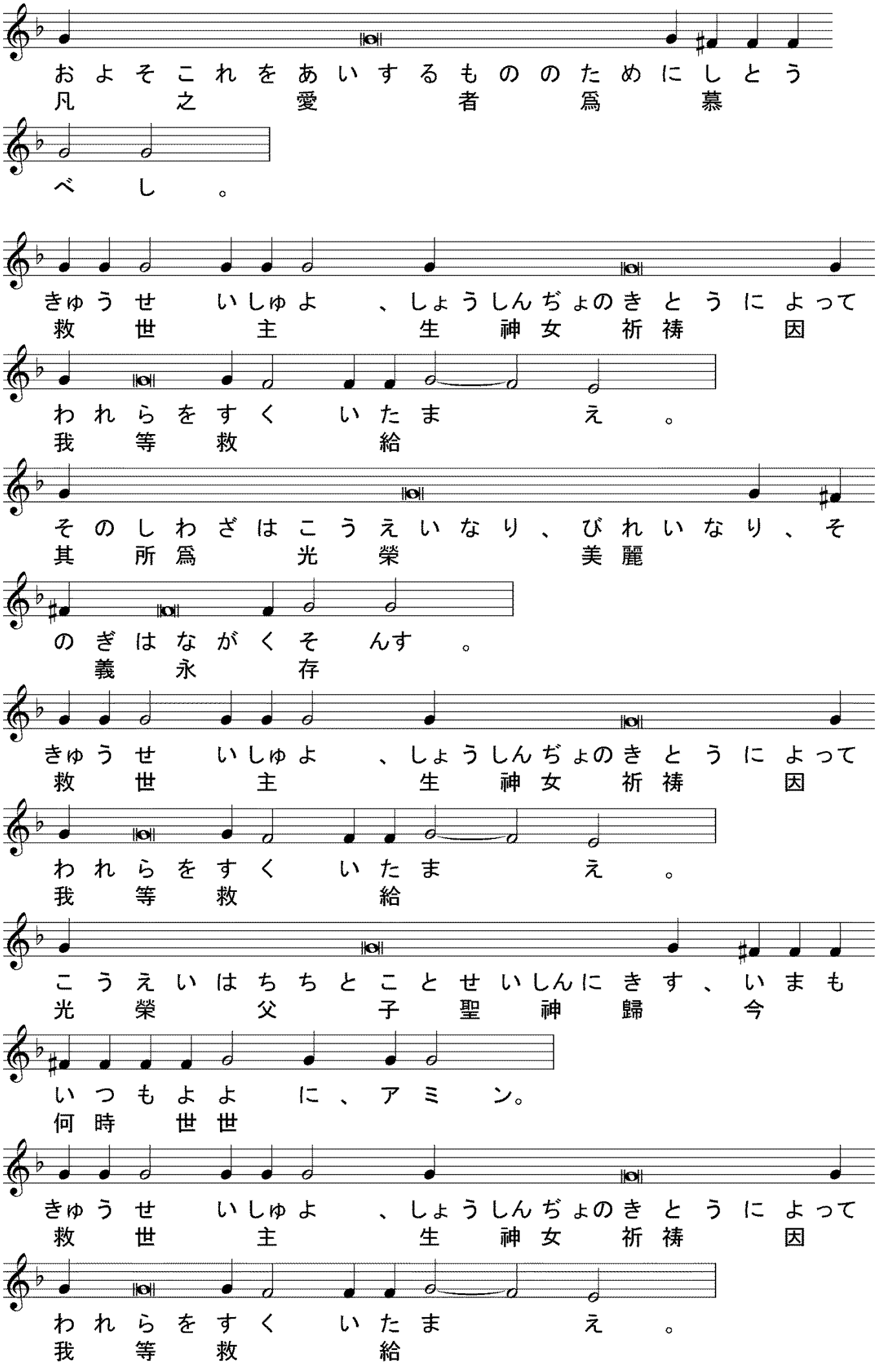


代禱）主(しゅ)イイスス・ハリストス、神(かみ)の子(こ)よ、爾(なんぢ)が至浄(しじょう)の母(はは)と諸聖人(しょせいじん)との祈禱(きとう)に因(より)て、我等(われら)を憐(あわれ)み給(たま)え、



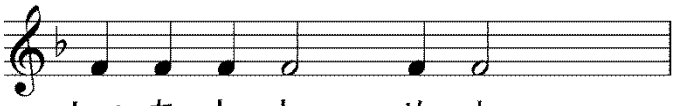
【　第一アンティフォン　】




およそこれをあいするもののためにしとう
凡之愛者爲慕
べし。
きゅうせいしゅよ、しょうしんぢょのきとうによって
救世主生神女祈祷因
われらをすくいたまえ。
我等救給
そのしわざはこうえいなり、びれいなり、そ
其所爲光榮美麗
のぎはながくそんす。
義永存
きゅうせいしゅよ、しょうしんぢょのきとうによって
救世主生神女祈祷因
われらをすくいたまえ。
我等救給
こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光榮父子聖神歸今
いつもよよに、アミン。
何時世世
きゅうせいしゅよ、しょうしんぢょのきとうによって
救世主生神女祈祷因
われらをすくいたまえ。
我等救給

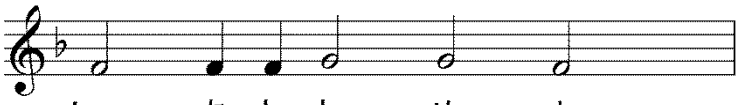
【　小聯禱　】

代禱）我等復又安和にして主に禱らん、



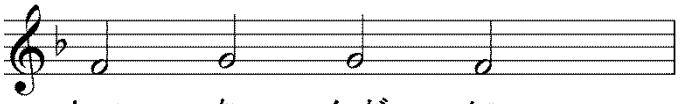
しゅ あ わ れ め よ 。
主 憐

代禱）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



しゅ あ わ れ め よ 。
主 憐

代禱）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

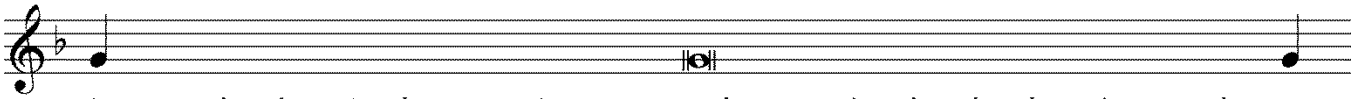


しゅ な んぢ に 。
主 爾

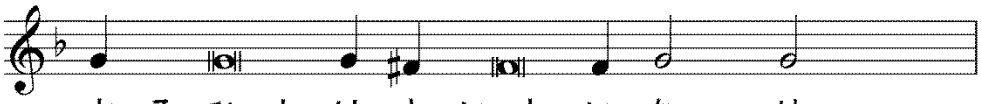
代禱）主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我等を憐み給え、

ア ミ ン。

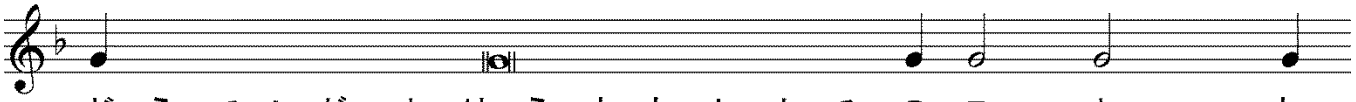
【　第二アンティフォン　】



か み を お そ れ 、 そ の い ま し め を き わ め て あ い
神 畏 其 誡 極 愛



す る ひ と は さ い わ い な り 。
人 福



ど う て い ぢ ょ よ り う ま れ し か み の こ よ 、 わ
童 貞 女 生 神 子 我

れらなんぢにアリルイヤをうたうものをすく
等爾　歌　者　救

いたまえ
給

そのすえはちにちからあり、せいちょくのもの
其裔　地力　正直　者

のぞくはしゅくふくせられん。
族　祝福

どうていぢょよりうまれしかみのこよ、わ
童貞女生神子我

れらなんぢにアリルイヤをうたうものをすく
等爾　歌　者　救

いたまえ
給

とみとたからとはそのいえにあり、そのぎは
富財　其家　其義

ながくそんす。
永存

どうていぢょよりうまれしかみのこよ、わ
童貞女生神子我

れらなんぢにアリルイヤをうたうものをすく
等爾　歌　者　救

いたまえ
給

せいちょくのものためにひかりはくらやみの
正直者爲光闇冥

うちにいづ、かれはいつくしみありめぐみあ
中出彼慈惠

りてぎなるものなり。
義者

どうていぢょよりうまれしかみのこよ、わ
童貞女生神子我

れらなんぢにアリルイヤをうたうものをすく
等爾歌者救

いたまえ
給

【 神の獨生の子 】

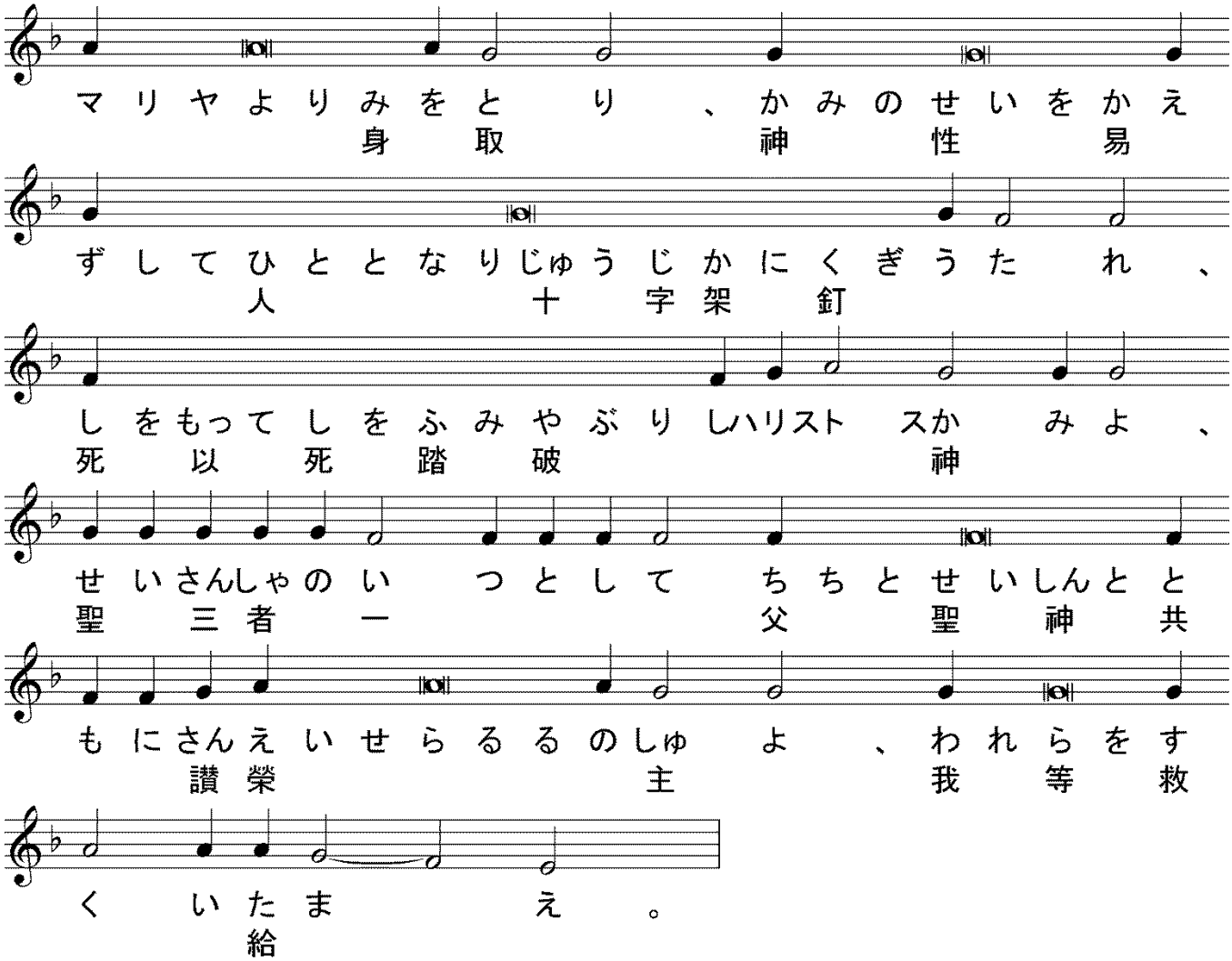
こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光榮父子聖神歸今

いつもよよに、アミン。
何時世世

かみのどくせいのこならびにことばよ、
神獨生子並言

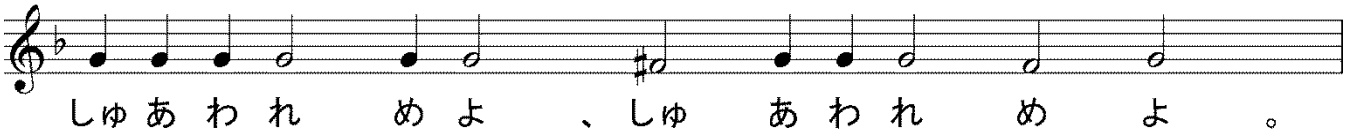
しせざるものにしてわれらをすくわんがため
死者我等救爲

あまんじてせいなるしょうしんぢょ・えいていどうぢょ
甘聖生神女永貞童女



【　小聯禱　】

代禱）我等復又安和にして主に禱らん、

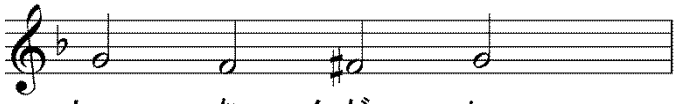


代禱）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

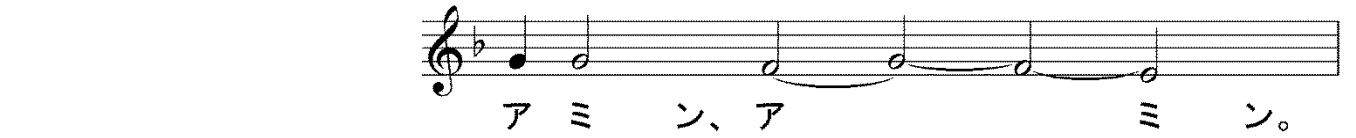
諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

生命を以て、ハリストス神に委託せん、



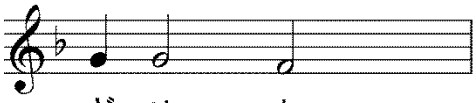
代禱）主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我等

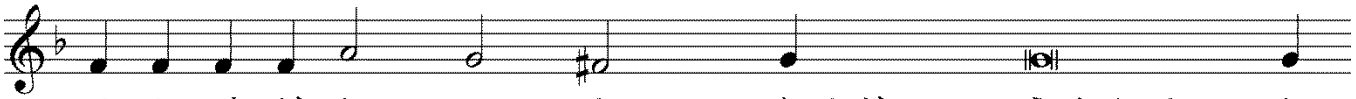
を憐み給え、

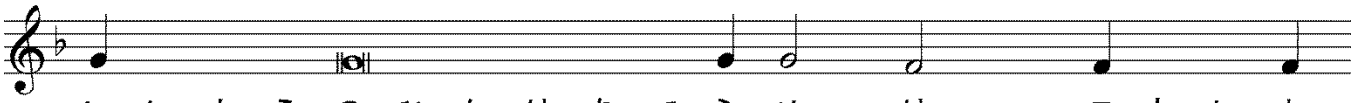

アミン、アミン。

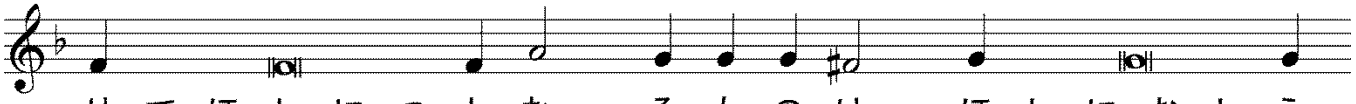
【　第三アンティフォン　】

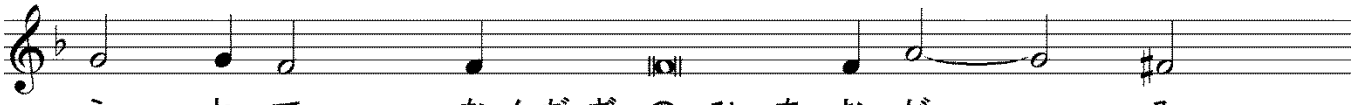
しゅわがしゅにいえり、なんぢわがみぎに
主我主謂爾我右

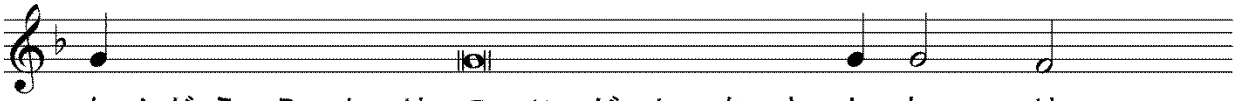

ざせよ。
坐

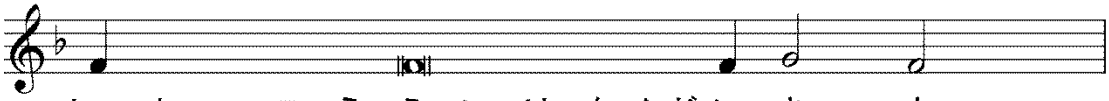

ハリストスわがかみよ、なんぢのこうたんはせか
我神爾降誕世界

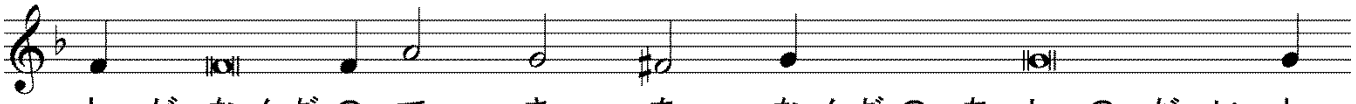

いにちえのひかりをてらせり、これによ
智慧光照此由

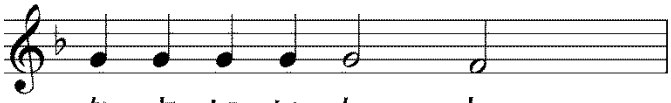

りてほしにつとむるものはほしにおしえ
星勤者星教

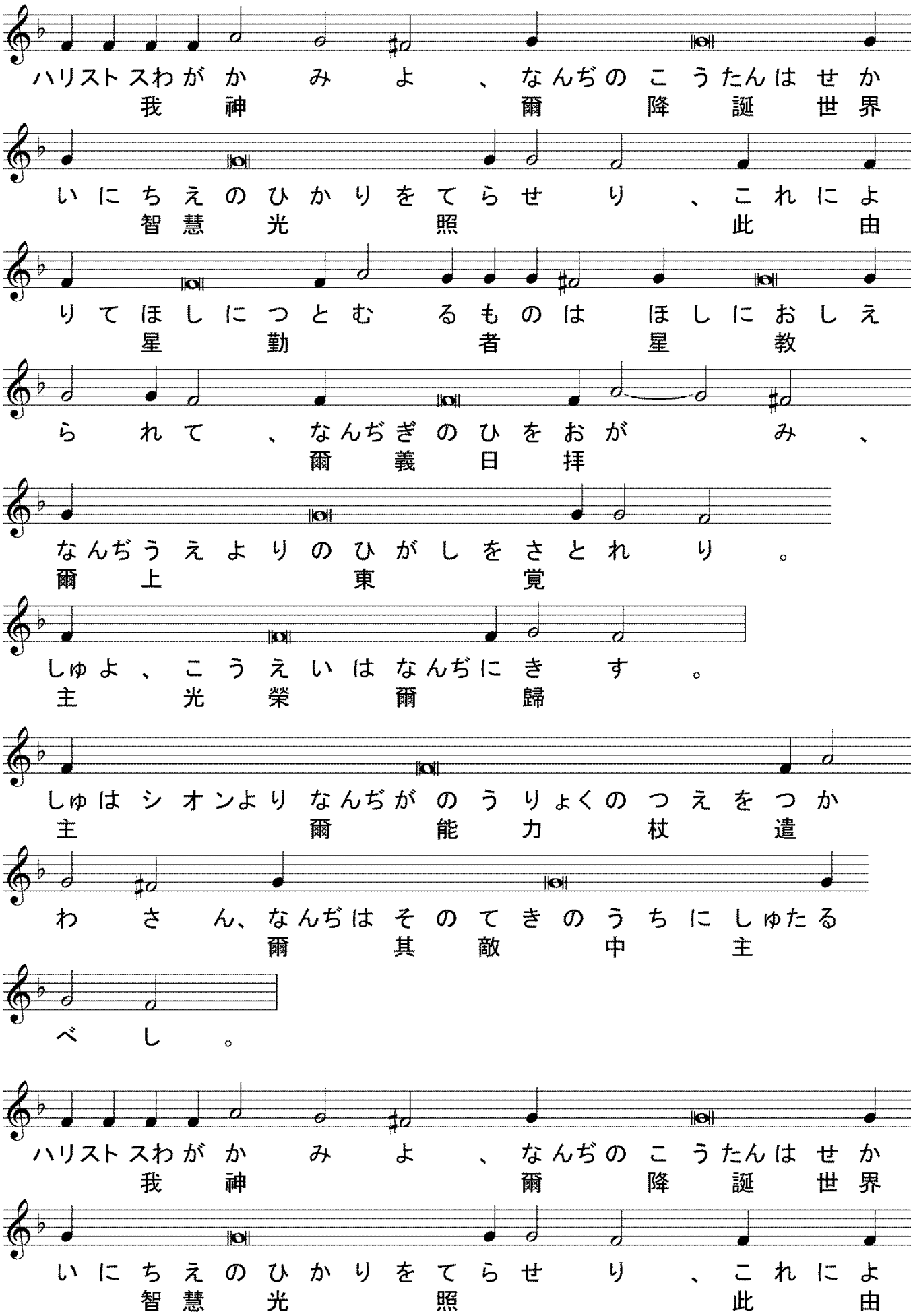

られて、なんぢぎのひをおがみ、
爾義日拝


なんぢうえよりのひがしをさとれり。
爾上東覚


しゅよ、こうえいはなんぢにきす。
主光榮爾歸


わがなんぢのてきをなんぢのあしのだいと
我爾敵爾足台


なすにいたれ。
爲迄


ハリストスわがかみよ、なんぢのこうたんはせか
我神爾降誕世界
いにちえのひかりをてらせり、これによ
智慧光照此由
りてほしにつとむるものはほしにおしえ
星勤者星教
られて、なんぢぎのひをおがみ、
爾義日拝
なんぢうえよりのひがしをさとれり。
爾上東覚
しゅよ、こうえいはなんぢにきす。
主光榮爾歸
しゅはシオンよりなんぢがのうりょくのつえをつか
主爾能力杖遣
わさん、なんぢはそのてきのうちにしゅたる
爾其敵中主
べし。
ハリストスわがかみよ、なんぢのこうたんはせか
我神爾降誕世界
いにちえのひかりをてらせり、これによ
智慧光照此由

りてほしにつとむ　るものは　ほしにおしえ
星　勤　者　星　教

られて、なんぢぎのひをおがみ、
爾　義　日　拝

なんぢうえよりのひがしをさとれり。
爾　上　東　覚

しゅよ、こうえいはなんぢにきす。
主　光　榮　爾　歸

なんぢがのうりょくのひにおいて、なんぢの
爾　能　力　日　於　爾

たみはせいなるびれいをもってそなえられた
民　聖　美　麗　以　備

り。

ハリストスわがかみよ、なんぢのこうたんはせか
我　神　爾　降　誕　世　界

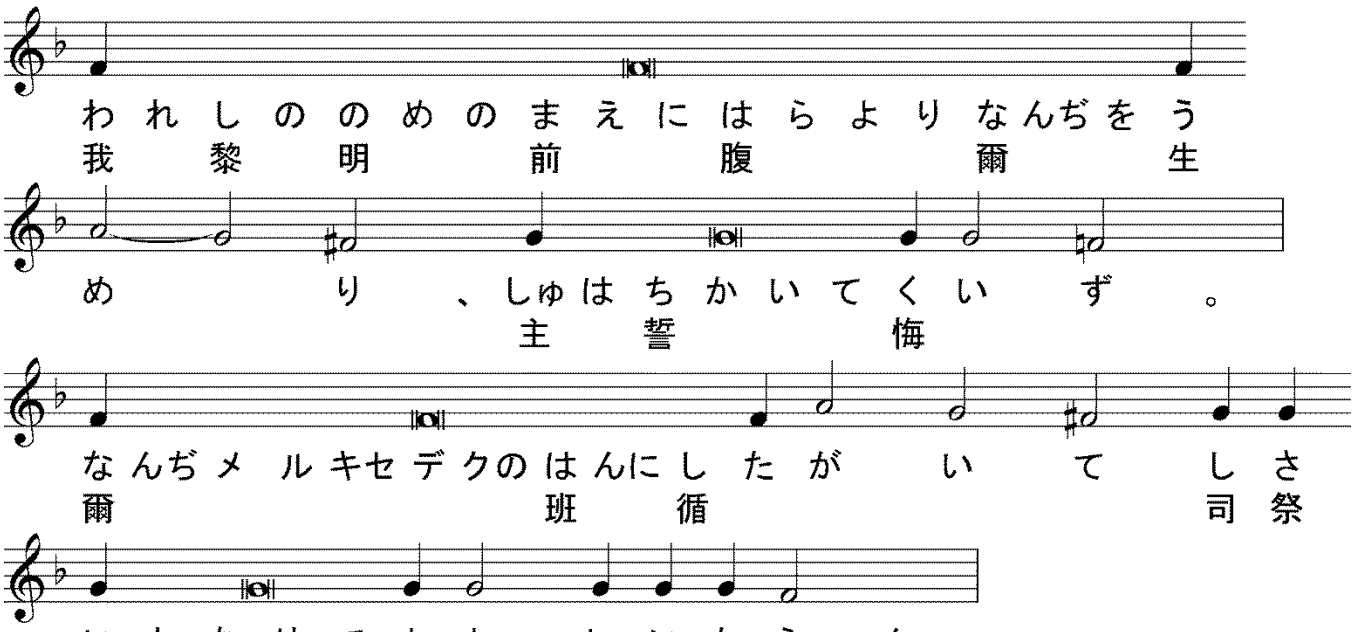
いにちえのひかりをてらせり、これによ
智　慧　光　照　此　由

りてほしにつとむ　るものは　ほしにおしえ
星　勤　者　星　教

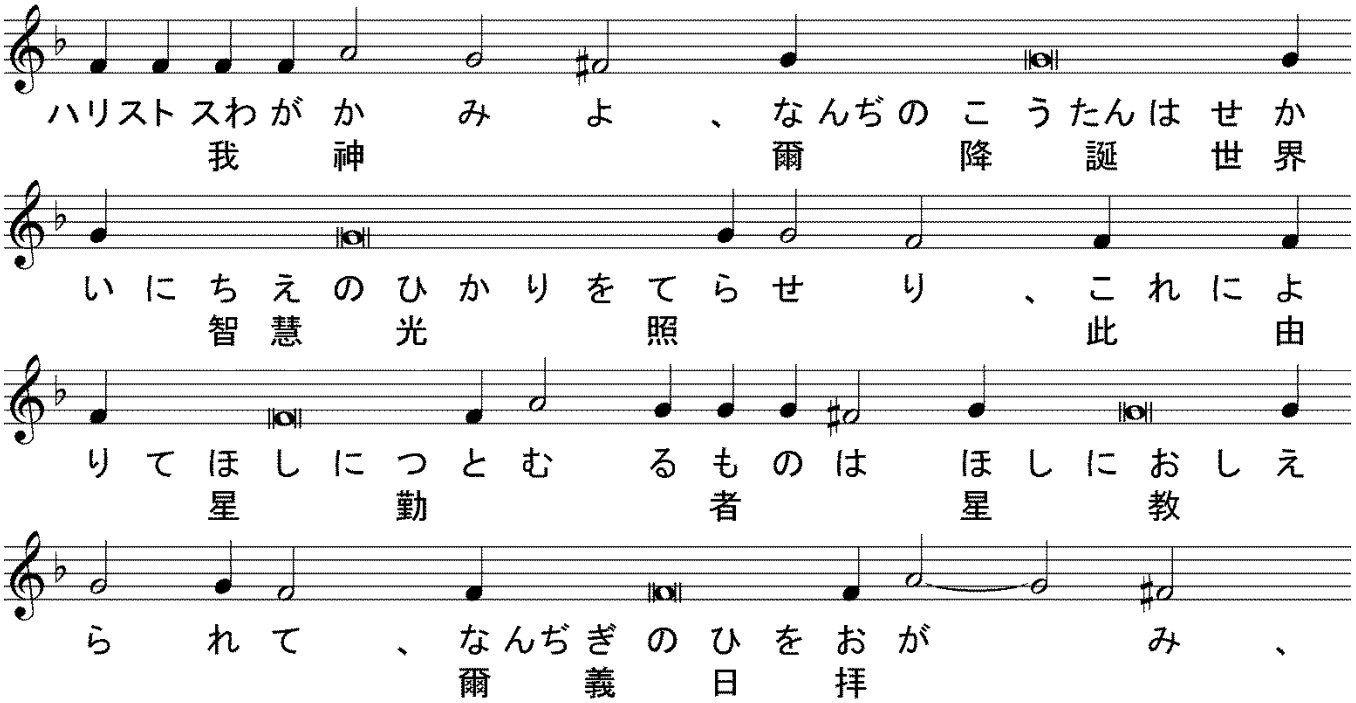
られて、なんぢぎのひをおがみ、
爾　義　日　拝

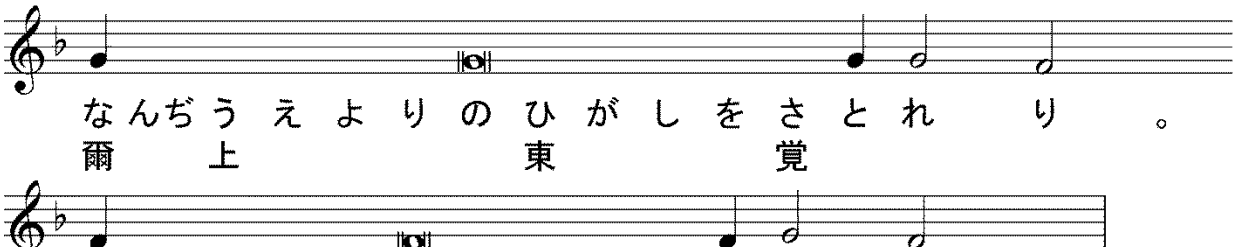
代禱）睿智（えいち）、粛（つつし）みて立（た）て、

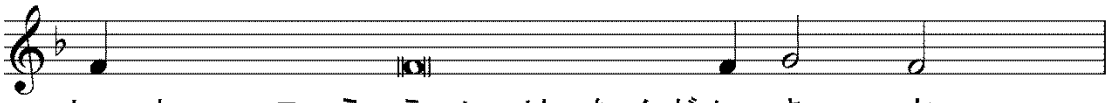
【　聖入の句　】



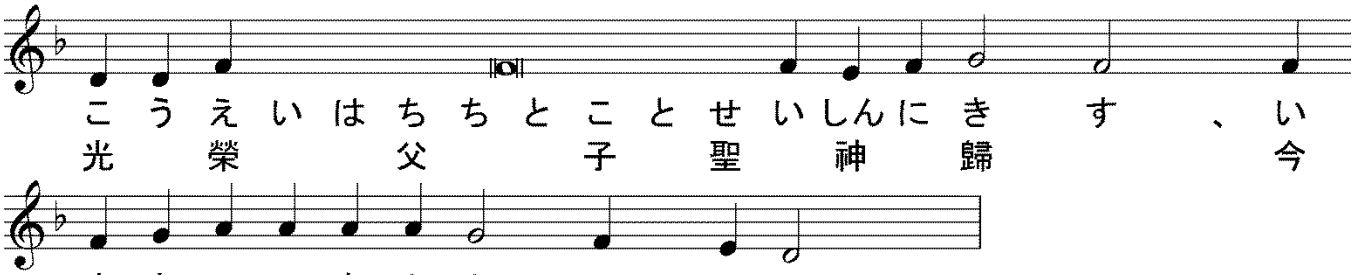
【　降誕祭のアポリティキオン　】

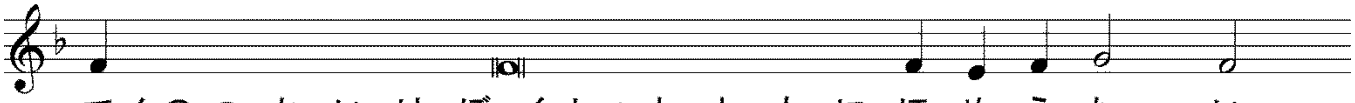


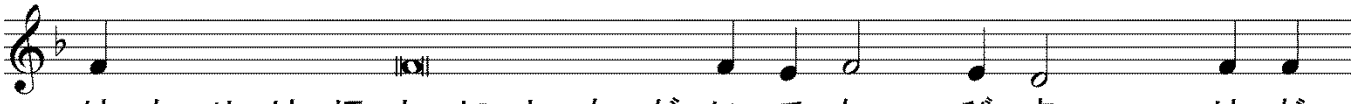


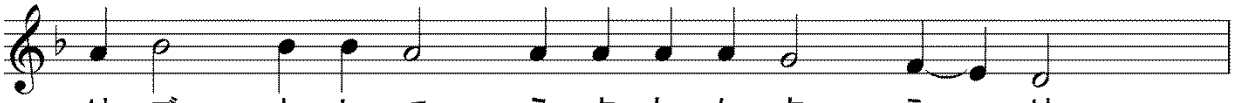


【　降誕祭のコンダック　】



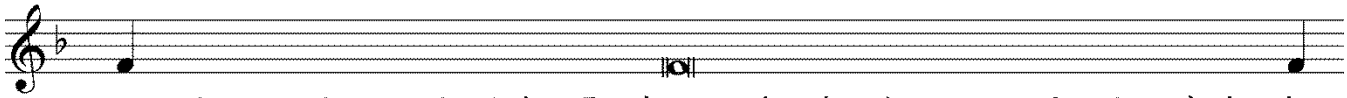


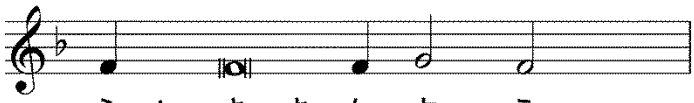




【　聖三の歌に代えて　】

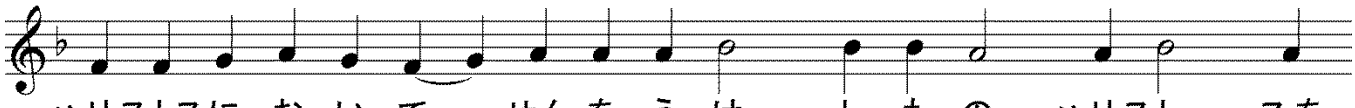
代禱）主(しゅ)よ、敬虔(けいけん)なる者(もの)を救(すく)い、及(およ)び我等(われら)に聆(き)き給(たま)え、

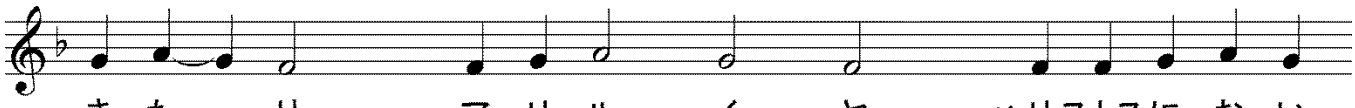

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
主 敬虔 者 救 及 我

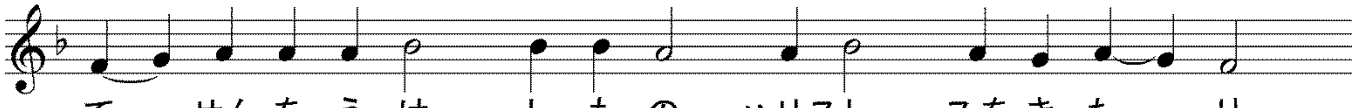

らにききたまえ。
等 聆 給

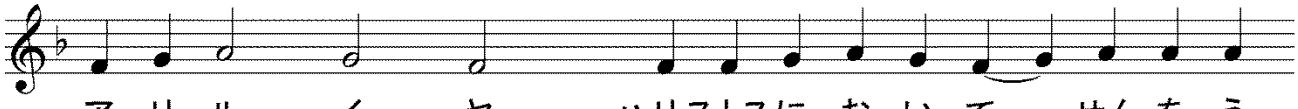
代禱）世世（よよ）に、

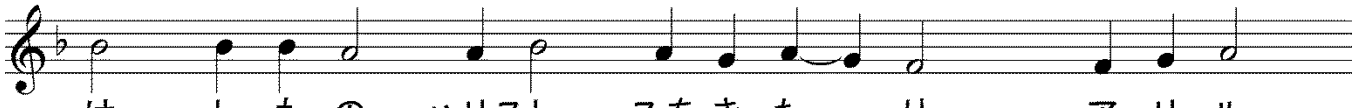
アミン。

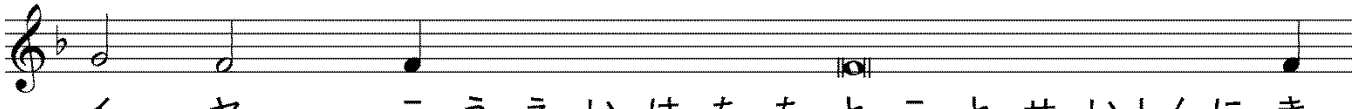

ハリストスにおいてせんをうけしものハリストスを
於 洗 受 者

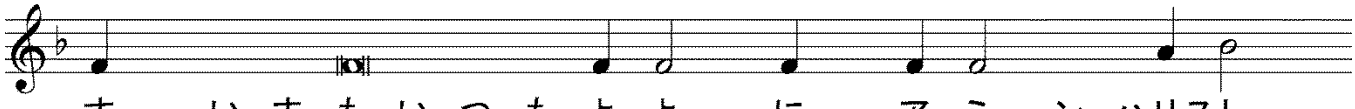

きたり、アリルイヤ、ハリストスにおい
衣 於

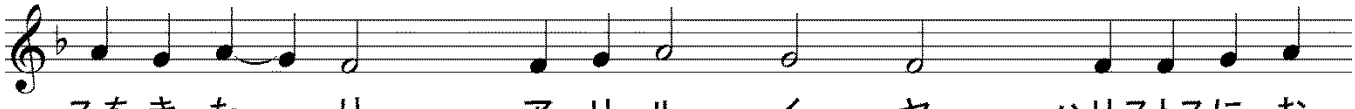

てせんをうけしものハリストスをきたり、
洗 受 者 衣

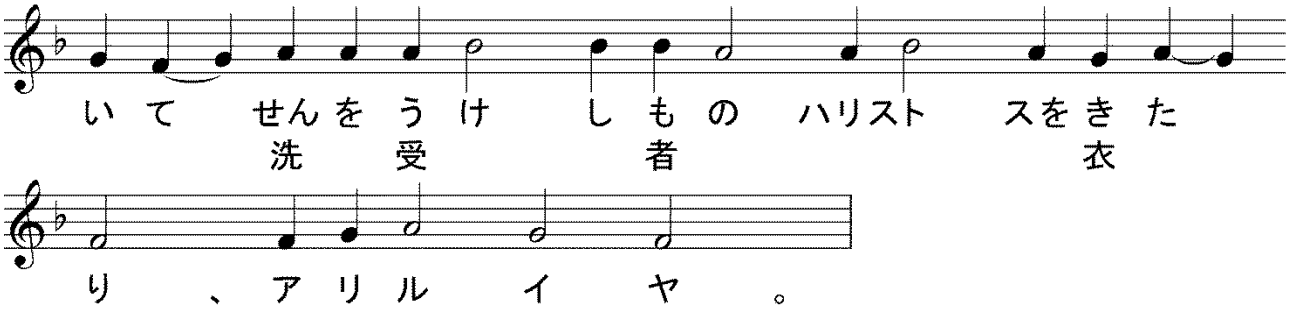

アリルイヤ、ハリストスにおいてせんをう
於 洗 受


けしものハリストスをきたり、アリル
者 衣


イヤ、こうえいはちちとことせいしんにき
光 榮 父 子 聖 神 歸


す、いまもいつもよよに、アミン。ハリスト
今 何 時 世 世

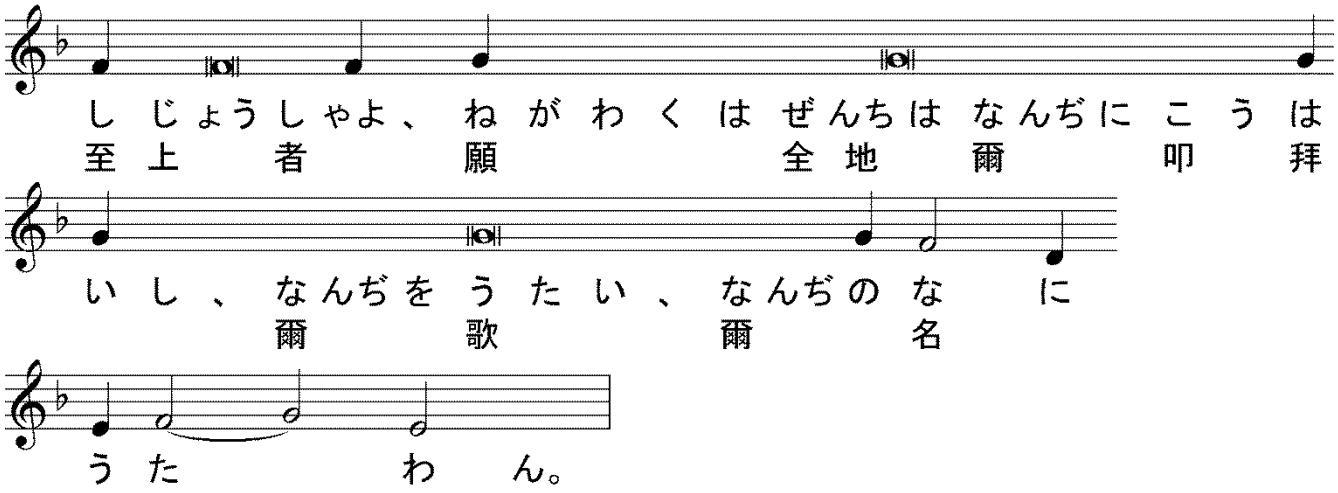

スをきたり、アリルイヤ。ハリストスにお
衣 於



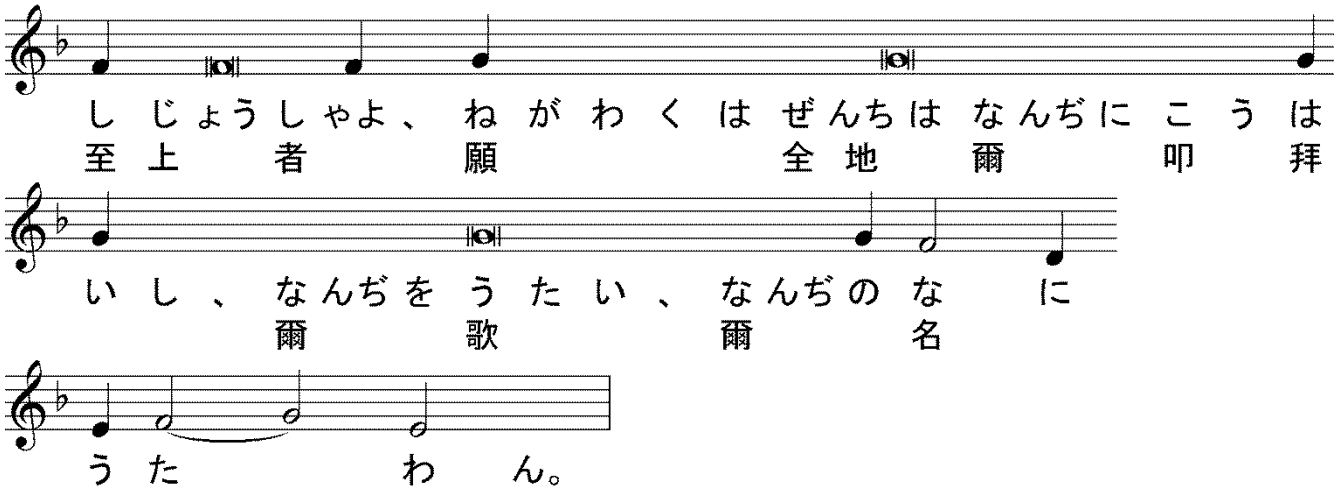
【 提綱（プロキメン） 】

代禱）睿智（えいち）、

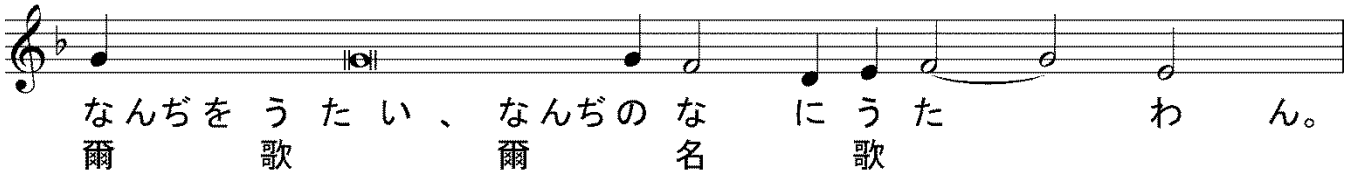
誦經）プロキメン、至上者（しじょうしゃ）よ、願（ねが）わくは全地（ぜんち）は爾（なんぢ）に叩拝（こうはい）し、爾（なんぢ）を歌（うた）い、爾（なんぢ）の名（な）に歌（うた）わん、



誦經）全地（ぜんち）よ、神（かみ）に歓（よろこ）びて呼（よ）び、其名（そのな）の光榮（こうえい）を歌（うた）い、光榮（こうえい）と讃美（さんび）とを彼（かれ）に歸（き）せよ、



誦經）至上者（しじょうしゃ）よ、願（ねが）わくは全地（ぜんち）は爾（なんぢ）に叩拝（こうはい）し、



【 使徒經（アポストロス）209 端 ガラティヤ書 4 章 4〜7 節 】

代禱）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがガラティヤ人に達する書の讀、

代禱）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、期満つるに至りて、神は其子を遣し、彼は女より生れ、律法下の者となれり、律法下の者を贖い、我等をして子たるを得しめん爲なり。且爾等子たるに由りて、神は爾等の心に其子の神、「アッヴァ」父を呼ぶ者を遣わせり。故に爾既に僕ならず、乃子なり、若し子ならば、イイススハリストスに由りて神の嗣なり。

＊＊

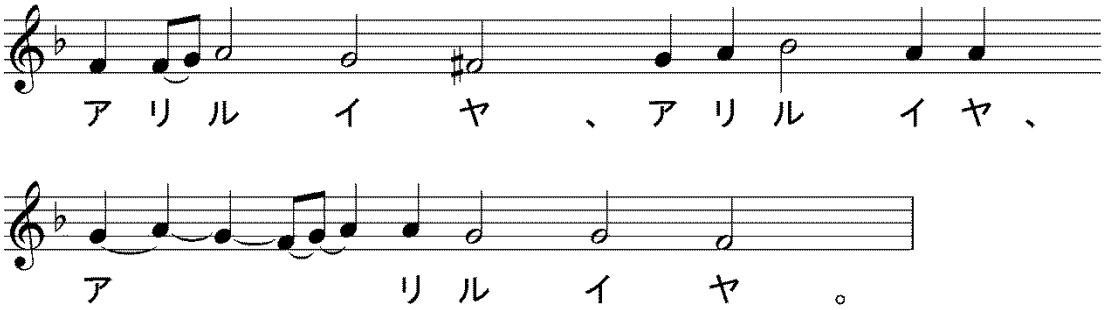
（比較用　口語訳）しかし、時の満ちるに及んで、神は御子を女から生れさせ、律法の下に生れさせて、おつかわしになった。 それは、律法の下にある者をあがない出すため、わたしたちに子たる身分を授けるためであった。 このように、あなたがたは子であるのだから、神はわたしたちの心の中に、「アバ、父よ」と呼ぶ御子の霊を送って下さったのである。 したがって、あなたがたはもはや僕ではなく、子である。子である以上、また神による相続人である。

＊＊

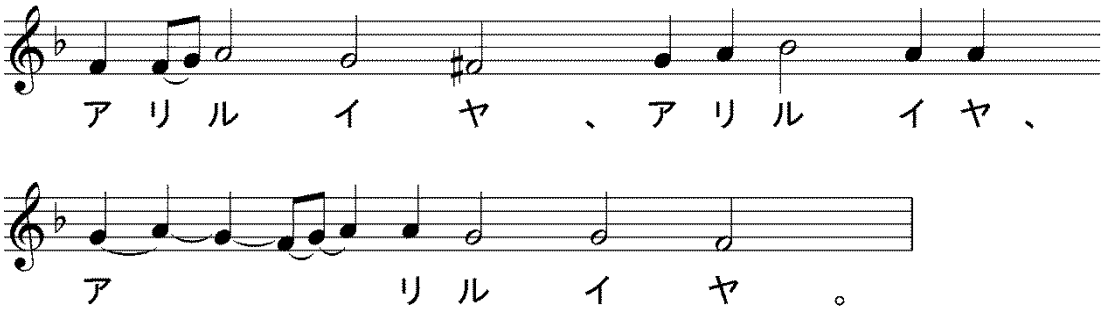
代禱）睿智、

誦經）アリルイヤ、

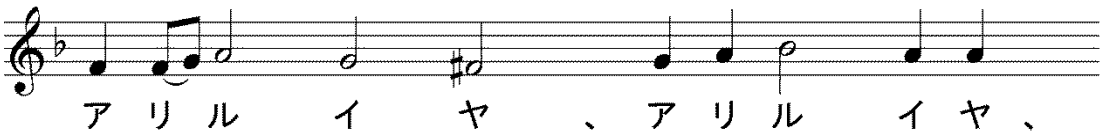
【　アリルイヤ　】

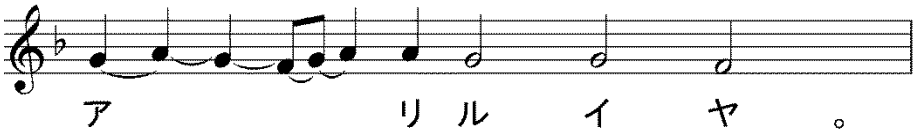


誦經）諸天は神の光榮を傅え、穹蒼は其手の作爲を詰ぐ、



誦經）日は日に言を宣べ、夜は夜に智を施す、

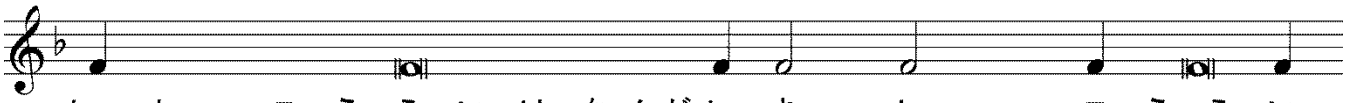


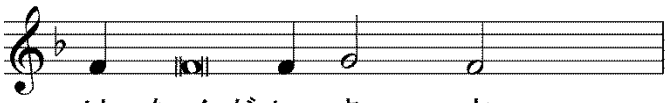


【　福音經（エヴァンゲリオン）　マトフェイ福音書3端　2章1～12節　】

代禱）睿智、

誦經）マトフェイ傳の聖福音經の讀、





代禱）謹みて聽くべし、

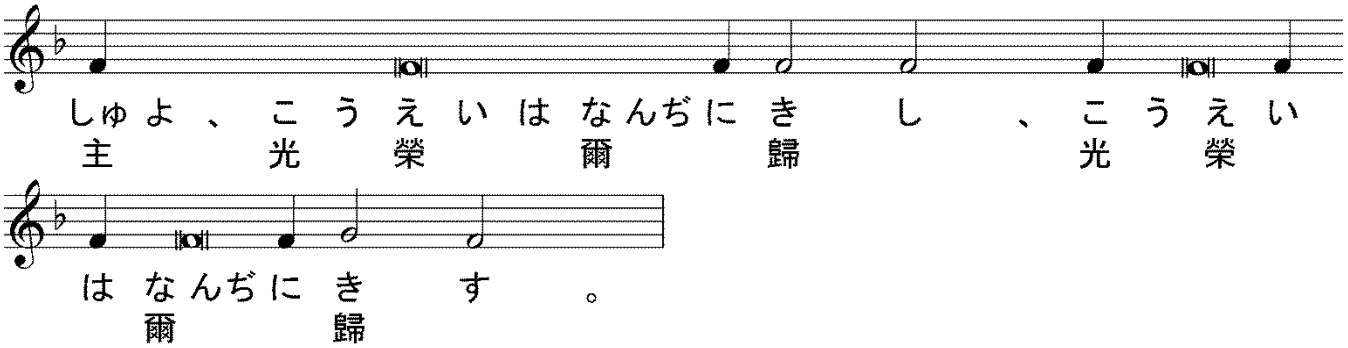
誦經）イイススはイロド王の時イゥデヤのヴィフレエムに生れしに、視よ、博士數人東よりイェルサリムに來りて曰く、生れたるイゥデヤ人の王は何處に在るか、蓋我等其星を東に見たれば、彼を拜せん爲に來れり。イロド王之を聞きて心騷げり、イェルサリム擧りて亦然り。乃凡の司祭長と民間の學士とを集めて、彼等に問えり、ハリストスは何處に生るべきか。彼等曰えり、イゥデヤのヴィフレエムに於てす、蓋預言者に因りて斯く録されたり、云く、イゥダの地ヴィフレエムよ、爾はイゥダの諸郡の中に於て聊も小しとせず、蓋爾より我が民イズライリを牧せんとする君は出でんと。是に於てイロド密に博士を召し、詳に星の現れし時を問い、彼等をヴィフレエムに遣して曰えり、往きて、細に嬰兒の事を尋ね、之に遇わば、我に告げよ、我も往きて彼を拜せん爲なり。彼等王に聞きて往けり、視よ、嘗て東に見たる星は彼等に先だちて行き、遂に嬰兒の在る所に至りて、其上に止れり。彼等星を見て喜に勝えざりき。乃家に入りて、嬰兒の

其母マリヤと偕に在るを見、俯伏して彼を拜し其寶盒を啓きて、之に禮物を獻じたり、即黄金、乳香、沒藥なり。既にして夢の中に、イロドに返る可からずとの默示を得て、他の途より其本地に歸れり。

＊＊

（比較用　口語訳）イエスがヘロデ王の代に、ユダヤのベツレヘムでお生れになったとき、見よ、東からきた博士たちがエルサレムに着いて言った、「ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました」。 ヘロデ王はこのことを聞いて不安を感じた。エルサレムの人々もみな、同様であった。 そこで王は祭司長たちと民の律法学者たちとを全部集めて、キリストはどこに生れるのかと、彼らに問いただした。彼らは王に言った、「それはユダヤのベツレヘムです。預言者がこうしるしています、『ユダの地、ベツレヘムよ、おまえはユダの君たちの中で、決して最も小さいものではない。おまえの中からひとりの君が出て、わが民イスラエルの牧者となるであろう』」。そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、星の現れた時について詳しく聞き、 彼らをベツレヘムにつかわして言った、「行って、その幼な子のことを詳しく調べ、見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしも拜みに行くから」。彼らは王の言うことを聞いて出かけると、見よ、彼らが東方で見た星が、彼らより先に進んで、幼な子のいる所まで行き、その上にとどまった。 彼らはその星を見て、非常な喜びにあふれた。 そして、家にはいって、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拜み、また、宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた。そして、夢でヘロデのところに帰るなとのみ告げを受けたので、他の道をとおって自分の国へ帰って行った。

＊＊



※代式祈祷③　へ